

2020年3月期  
決算発表説明資料



2020年5月14日  
エンシュウ株式会社  
(東証一部 6218)

---

## I. 2019年度連結決算概要

### ● 全社

- (1) 経営成績
- (2) 事業部門別売上高・営業利益

### ● 工作機械関連事業部門

- (3) 地域別売上高・営業利益
- (4) 受注高・受注残高

### ● 配当

- (5) 剰余金の配当について

## II. 中期計画（2017-2019）振り返り

### ● 総括

### ● 全社連結

### ● 利益剰余金、純資産推移

### ● 成長戦略

## III. 新型コロナウイルス感染症の影響について

## IV. 2020年度業績予想について

## V. 参考資料

### ● 四半期業績推移 連結

### ● 経営指標等の推移 連結

# I. (1) 全社 経営成績

## ● 2019年度 通期業績概要 【減収減益】

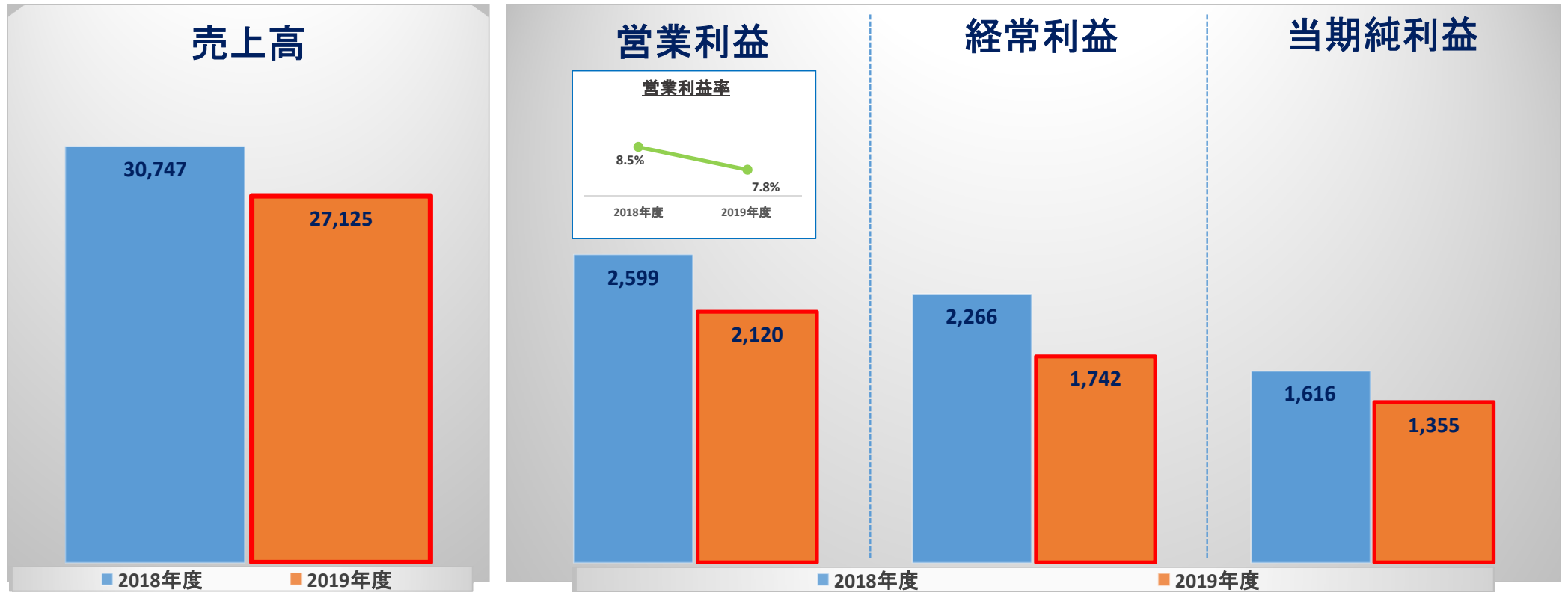
米中貿易摩擦の影響による中国の投資減退や欧米の売上減少に加え、新型コロナウイルスの影響による減少もあり、全社売上高は27,125百万円（前年同期比11.8%減）と減収

営業利益は、主に輸送機器関連事業の減益により、営業利益2,120百万円（前年同期比18.4%減）と減益

## ● 2020年度 通期業績予想の未定 今後の予想開示について

2020年度通期業績予想につきましては、新型コロナウイルスの影響が世界規模におよび先行きが不透明なことから、現時点にて合理的に業績予想を算出することが困難であり、未定としております。

6月中に上期業績予想を開示できるよう、準備を進めております。



## I. (2) 事業部門別 売上高・営業利益

(単位:百万円)

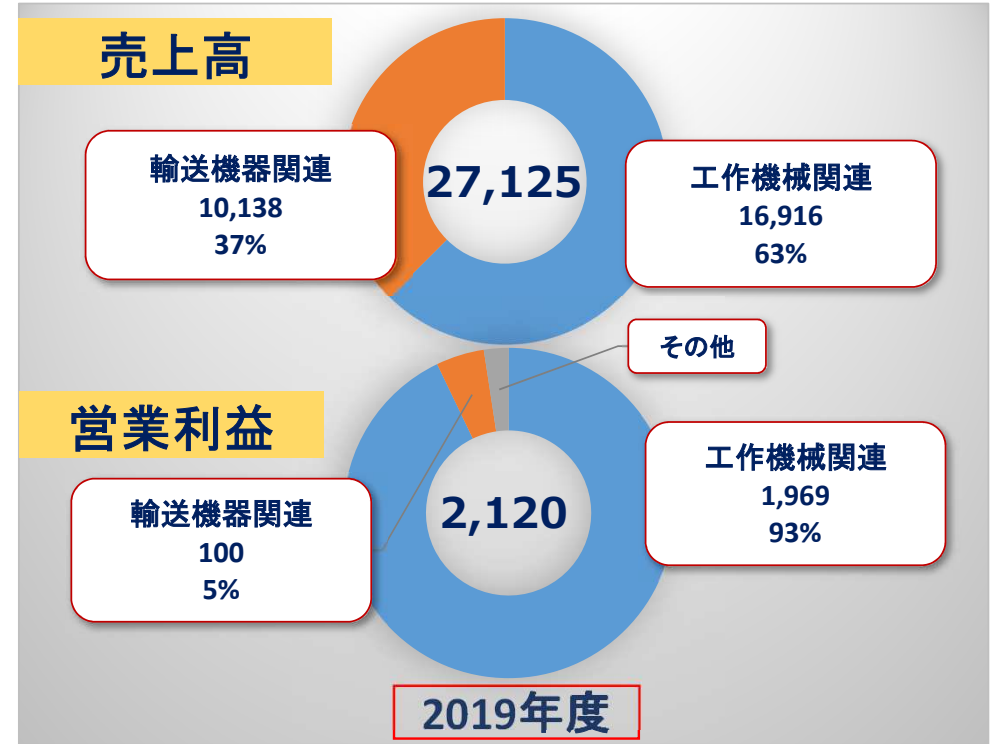
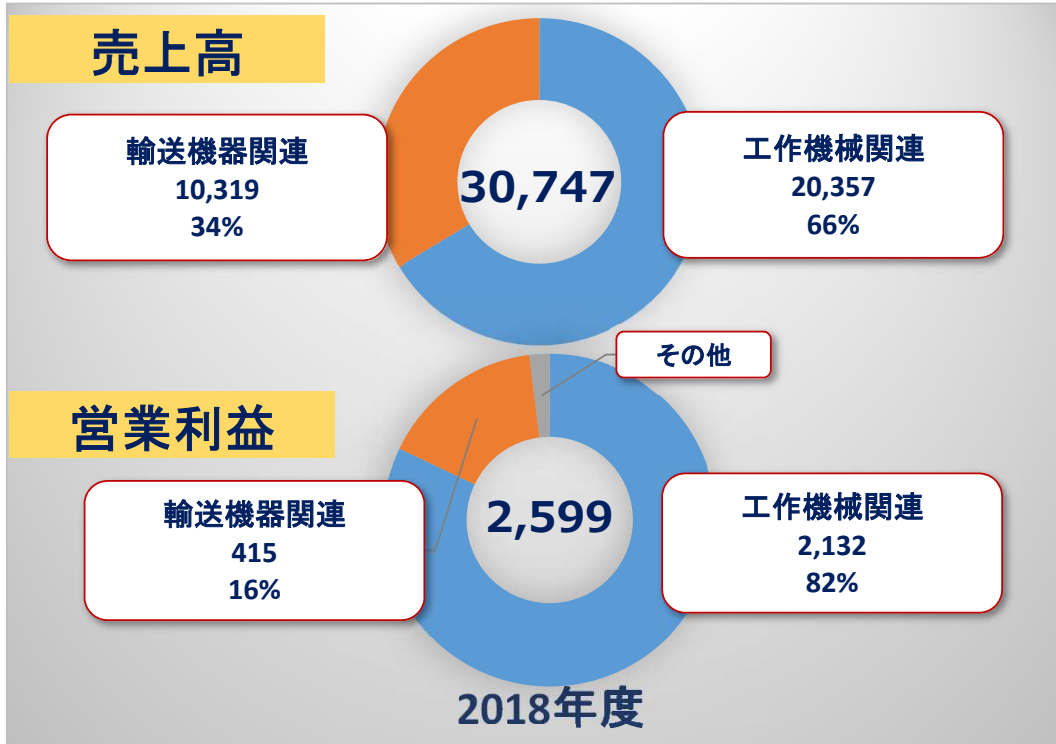
### ● 輸送機器関連事業部門

売上高については、海外現地法人が減少したことから10,138百万円と減収

営業利益においては、経費負担増加に加え新規部品取り込みのための生産準備費用や品質対策にかかる一過性の費用が発生したが、その他の費用削減や生産性向上活動を継続したことで100百万円の利益を確保

### ● 工作機械関連事業部門

次項参照



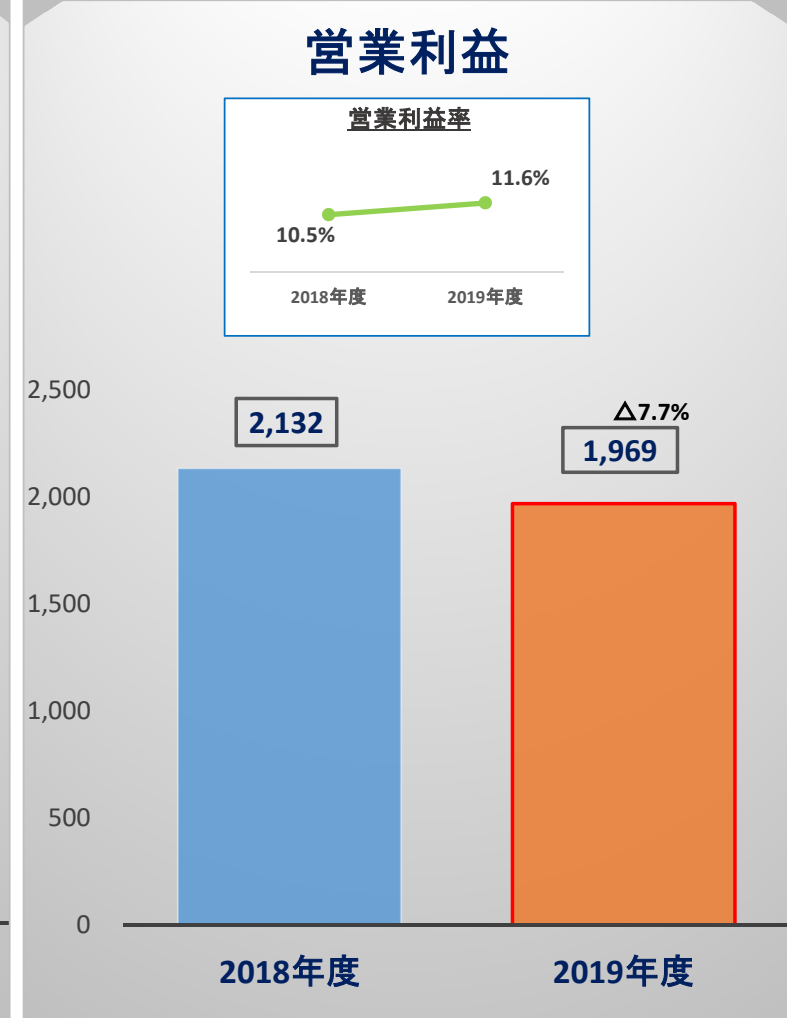
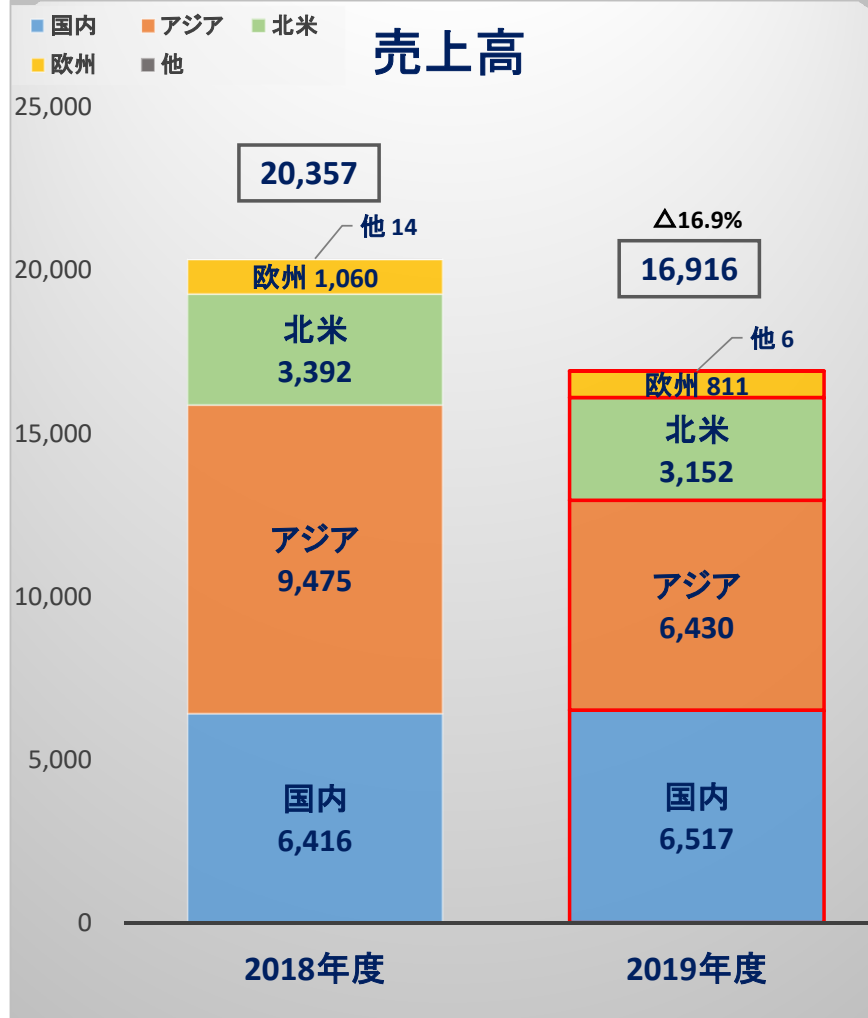
# I. (3) 工作機械関連事業部門 地域別売上高・営業利益

(単位: 百万円)

## ●2019年度 通期業績概要

中国の投資減退や欧米の売上減少に加え、新型コロナウイルスの影響による売上のずれ込みが発生したこともあり、売上高は16,916百万円と減収

営業利益においては、案件毎に技術面での原価低減を徹底したことや、製造面での効率アップ等の施策を推進、また海外現地法人の増益により1,969百万円と高水準を維持



# I. (4) 工作機械関連事業部門 受注高・受注残高

(単位: 百万円)

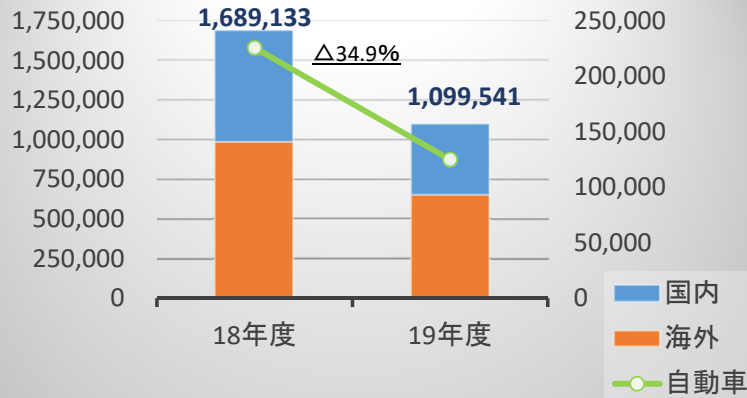
2019年度の日工会の受注総額は1兆995億円（前期比34.9%減）と、昨年来の米中貿易摩擦に加え新型コロナウイルスの影響も加わり、10年ぶりの低水準となっている

当社工作機械関連事業においても、国内受注は健闘しているものの全社として業界同様の落ち込みとなっている

今後は、コロナ影響下での対応を行いつつ、回復後に向けた備えを進めていく

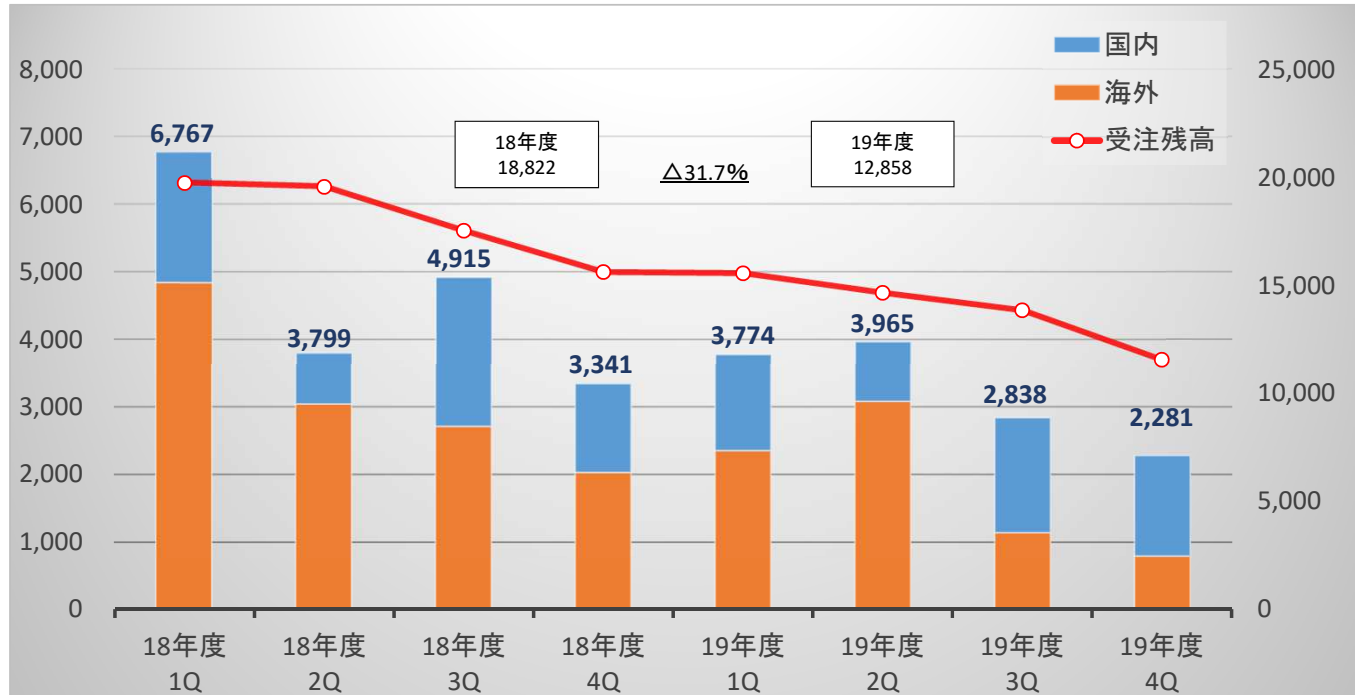
自動車業界は、コロナ収束後に相応の投資があると捉えており、受注に向けた活動に力を入れていく

## ☆日本工作機械工業会受注推移



	18年度	19年度	18年度累計比
国内	703,366	446,639	-36.5%
海外	985,767	652,902	-33.8%
自動車(国内)	225,616	124,935	-44.6%

## ☆当社の連結受注高及び連結受注残高推移



	18年度1Q	18年度2Q	18年度3Q	18年度4Q	19年度1Q	19年度2Q	19年度3Q	19年度4Q	18年度累計比
国内	1,928	757	2,204	1,310	1,419	885	1,696	1,487	-11.5%
海外	4,839	3,042	2,711	2,031	2,355	3,080	1,142	794	-41.6%
受注残高	19,739	19,562	17,525	15,611	15,557	14,650	13,841	11,553	

## I. (5) 剰余金の配当について

### ●資本政策の基本的な方針

当社は、好不況の波の大きい工作機械業界において安定的に配当を継続するために、収益体質の強化による利益の最大化を図りつつ、利益剰余金を積み増していくことを資本政策の基本的な方針としております。

### ●期末配当について

新型コロナウイルス感染症による当社グループの今後の連結業績への影響が極めて不透明であり、現時点においては、内部留保を確保し経営と雇用の安定化に備えることが株主共通の利益につながるものと考えております。以上のことから、当期の期末配当金につきましては、1株あたり30円（普通配当15円、記念配当15円）とさせていただいておりましたが、普通配当は前期同額の1株あたり10円とし、記念配当は見送らせていただきます。

### 普通株式に係る年間配当

基準日	普通株式1株当たり配当金		
	2019年3月期末	2020年3月期末	2021年3月期末
普通配当	円銭 10.00	円銭 10.00	円銭 未定
記念配当	—	0.00	—
合計	10.00	10.00	未定

## Ⅱ. 中期計画（2017-2019）振り返り 総括

### ●中期計画 総括

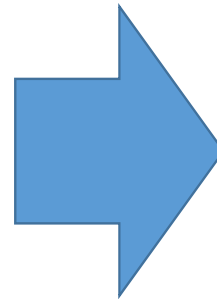
- ・売上高は新型コロナウイルスの影響で一部未達となったが、中間年では最終年度の目標を大幅に上回るなど順調に推移
- ・利益面では利益率、金額ともに目標を大幅に上回り達成
- ・利益剰余金も順調に回復し、10年ぶりの復配を達成
- ・最終年度末の個別純資産は100億円超を達成

### 2019年度 目標

売上高：29,000

営業利益：1,450

営業利益率：5%



### 2019年度 実績

売上高：27,125…○

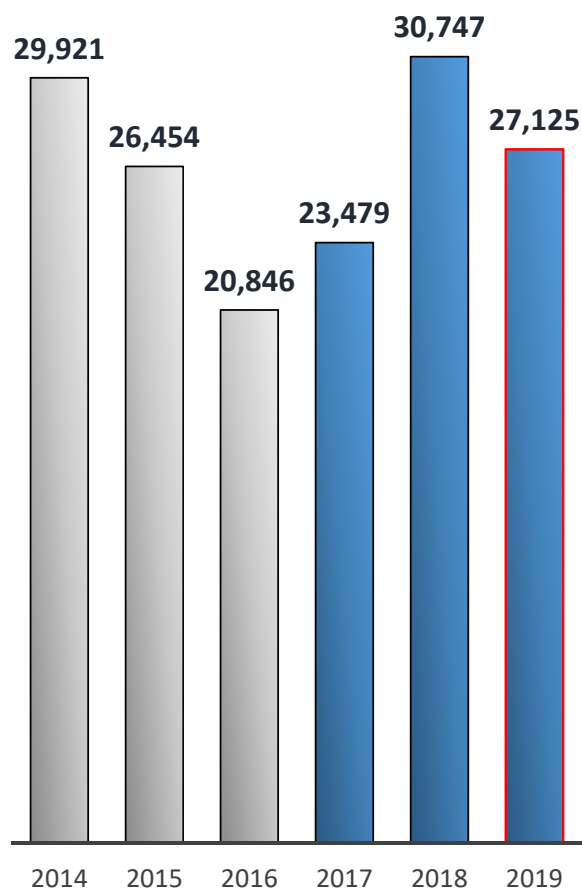
営業利益：2,120…○

営業利益率：7.8%…○

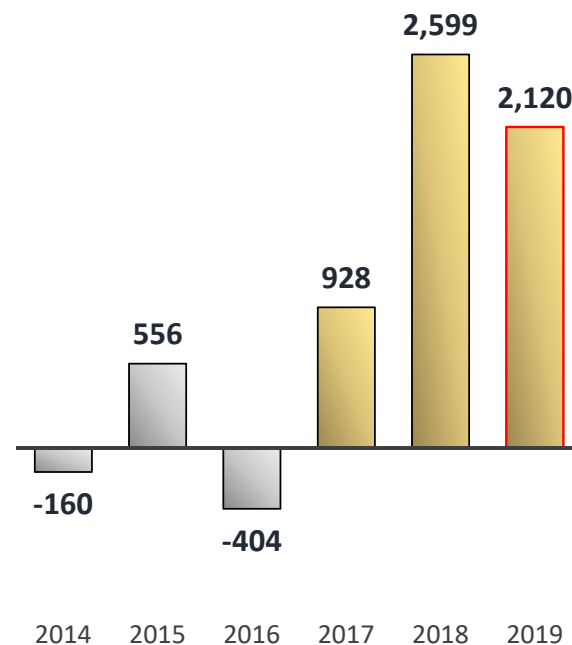


## Ⅱ. 中期計画（2017-2019）振り返り 全社連結

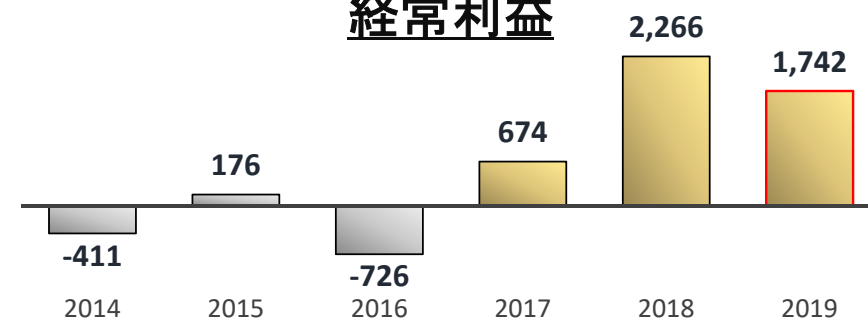
### 売上高



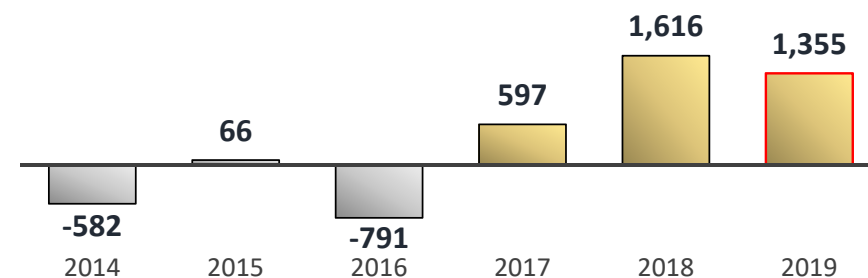
### 営業利益



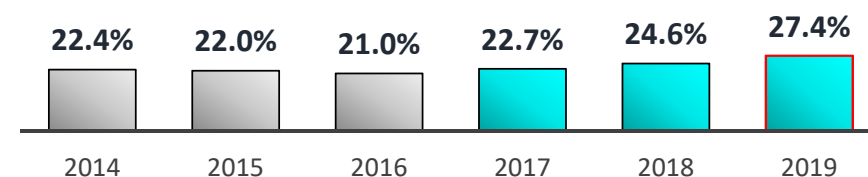
### 経常利益



### 当期純利益

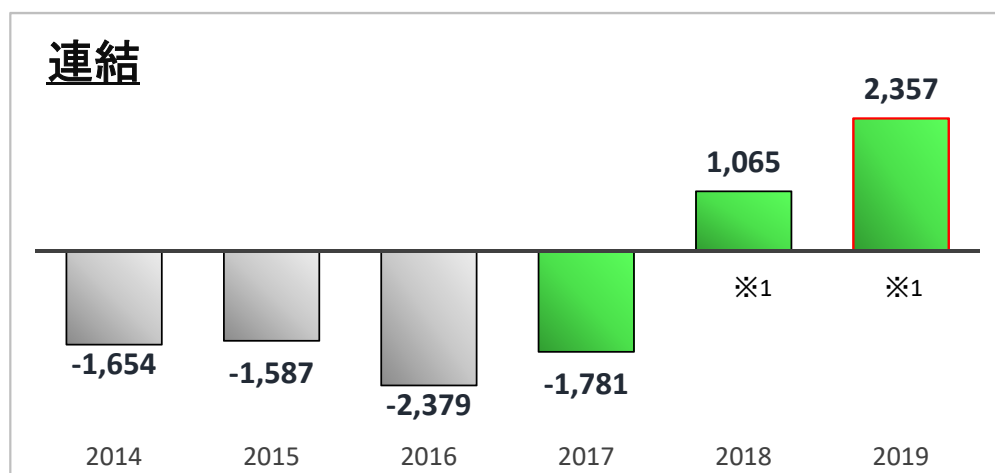
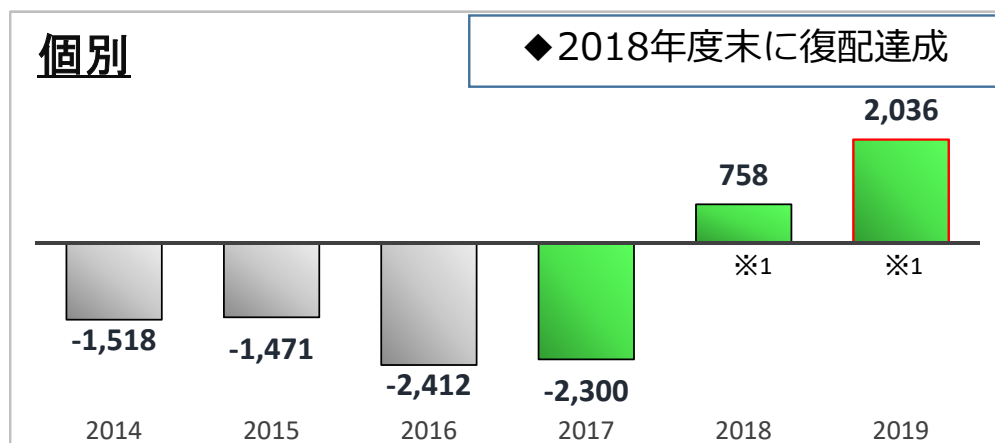


### 自己資本比率



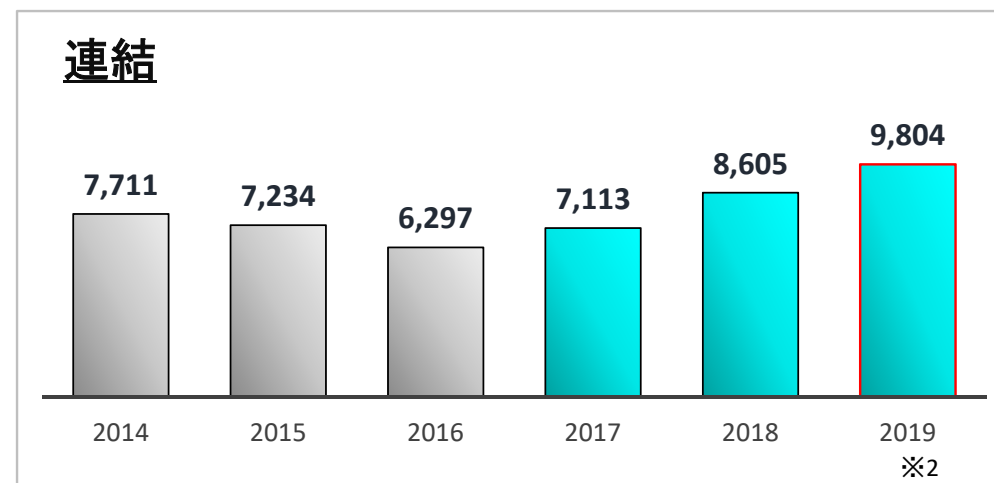
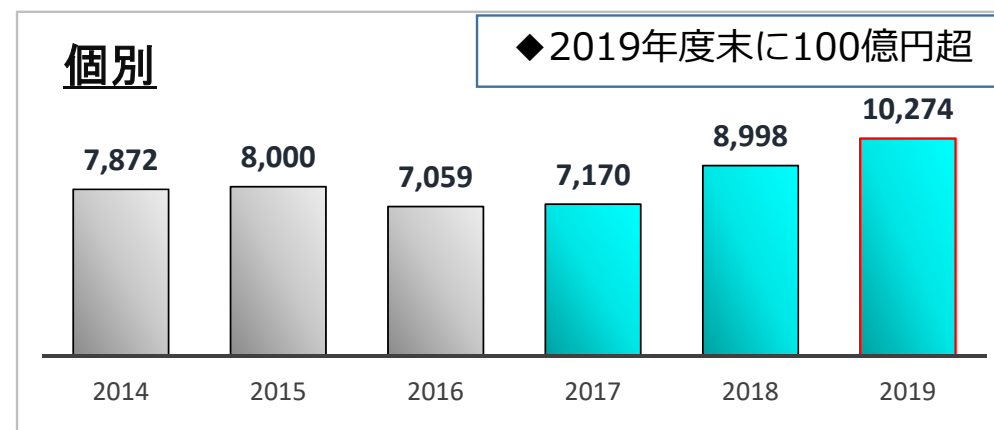
## II. 中期計画（2017-2019）振り返り 利益剰余金、純資産推移

### ◆利益剰余金



※1 資本準備金から利益剰余金への振替1,230百万円含む

### ◆純資産



※2 退職給付に係る調整累計額△1,063百万円含む

## II. 中期計画（2017-2019）振り返り 成長戦略

### ◇工機・レーザー事業部

#### 1. 受注戦略

- ・システムを中心として受注を確保したが、非自動車業界の開拓は継続課題

#### 2. 高付加価値化

- ・レーザークラッドがレーザーの売上、利益に貢献。ホーニングマシンも売上に貢献
- ・既存自動車ユーザー以外への拡販を目指し、搬送機能を内蔵したMC（E-Loader）を開発
- ・旋盤メーカーとの協業による拡販を目指し、展示会出展等を実施

#### 3. コスト削減・L/T短縮

- ・モノづくり改革（原価企画、仕事の進め方、工程管理）を実行し、利益率を向上

### ◇シナジー効果、新規事業

#### 4. IoT活用戦略

- ・輸送機器事業部の社内設備にIoTを導入し生産性向上に寄与、今後は外販に取り組んでいく

#### 5. 新規事業の探索

- ・レーザー関連など既存事業への売上拡大に寄与しているが、更なる売上拡大に向けた取組が必要

### Ⅲ. 新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナウイルス感染症により、亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。また、罹患により闘病中の方々の一日も早い回復を心よりお祈り申し上げます

#### ◆当社における影響について

##### <工作機械・レーザー事業>

受注残がありその対応を行っているため、上期は一定の売上は確保できる見通し  
受注活動については停滞しているが、自動車業界はコロナ収束後に相応の投資があると捉えており、  
収束後の受注回復に向けて準備を進めている

##### <輸送機器事業>

ヤマハ発動機が5,6月にかけて操業を停止しており、当社もそれに合わせて生産調整を実施し、  
対象となる社員は休業している（ヤマハ発動機操業停止：二輪車11日間、船外機27日間）  
四輪は落ち込みが少なく、今のところ堅調に推移している

## IV. 2020年度業績予想について

### ◆2020年度業績予想について

2020年度通期業績予想につきましては、新型コロナウイルスの影響が世界規模におよび先行きが不透明なことから、現時点にて合理的に業績予想を算出することが困難であり、未定としております。

なお、6月中に上期業績予想を開示できるよう、準備を進めております。

## V. (参考資料) 四半期業績推移 連結



(単位:百万円)

(累計期間)

						セグメント			
		売上高	営業利益	経常利益	純利益	工作機械関連 売上高	営業利益	輸送機器関連 売上高	営業利益
2018年3月期 (150期)	第1四半期	4,150	△ 1	△ 34	△ 48	1,596	△ 162	2,536	148
	上期	11,110	444	315	280	6,110	127	4,964	290
	第3四半期	16,163	569	371	320	8,729	112	7,380	418
	通期	23,479	928	674	597	13,671	378	9,737	498
2019年3月期 (151期)	第1四半期	6,755	333	271	216	4,175	150	2,561	170
	上期	13,460	819	653	581	8,150	482	5,274	311
	第3四半期	23,047	1,902	1,661	1,049	15,101	1,445	7,892	418
	通期	30,747	2,599	2,266	1,616	20,357	2,132	10,319	415
2020年3月期 (152期)	第1四半期	6,314	655	577	504	3,828	659	2,467	△ 17
	上期	13,780	1,481	1,259	1,089	8,700	1,390	5,044	64
	第3四半期	20,025	1,844	1,571	1,261	12,349	1,743	7,623	61
	通期	27,125	2,120	1,742	1,355	16,916	1,969	10,138	100

## V. (参考資料) 経営指標等の推移 連結



決算期	146期	147期	148期	149期	150期	151期	152期
	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/4
売上高(百万円)	31,060	29,921	26,454	20,846	23,479	30,747	27,125
営業利益(百万円)	1,442	-160	556	-404	928	2,599	2,120
営業利益率(%)	4.6%	-0.5%	2.1%	-1.9%	4.0%	8.5%	7.8%
経常利益(百万円)	1,565	-411	176	-726	674	2,266	1,742
当期純利益(百万円)	1,459	-582	66	-791	597	1,616	1,355
純資産(百万円)	7,905	7,711	7,234	6,297	7,113	8,605	9,804
総資産(百万円)	35,965	34,476	32,952	29,967	31,376	34,995	35,780
ROE(%) (純利益/純資産)	19.5%	-7.5%	0.9%	-11.7%	8.9%	20.6%	14.7%
ROA(%) (経常利益/総資産)	4.4%	-1.2%	0.5%	-2.3%	2.2%	6.8%	4.9%
自己資本比率(%)	21.8%	22.4%	22.0%	21.0%	22.7%	24.6%	27.4%



# 繋ぐ技術を、世界へ

2020年2月5日

おかげさまでエンシュウは

創立100周年を迎えました

**ENSHU**

エンシュウ株式会社



本説明資料に記載いたしました業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動等が含まれます。